

## 令和元年度第2回登別市子ども・子育て会議議事録（要旨）

- 日時 令和元年12月20日（金）18時00分～19時00分
- 場所 登別市役所 第二委員会室
- 出席者 委員 中村委員 中野委員 佐藤委員 佐野委員 戸井委員 片岡委員  
浜委員 堀井委員 稲葉委員 木村（由）委員 木村（義）委員  
小山内委員、片山委員、河上委員、鳴海委員  
事務局 松本保健福祉部長 沼田保健福祉部次長  
平田こども育成グループ総括主幹 百貫こども家庭グループ総括  
主幹 北村こども育成グループ主査、熊谷こども家庭グループ主査  
今野こども家庭グループこども相談室主査 村田担当員
- 議事 (1) 前回会議の配布資料に係る質問について  
(2) 第2期子ども・子育て支援事業計画素案について  
①ニーズ調査結果および実績を踏まえた量の見込みについて  
②保育所等の利用定員について  
(3) その他
- 資料 資料1 前回会議の配布資料に係る質問について  
資料2 第2期子ども・子育て支援事業計画（素案）  
資料3 ニーズ調査および実績を踏まえた量の見込み  
資料4 保育所等の利用定員について

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 前回会議の配布資料に係る質問について

##### (事務局)

- ・資料2から資料4までを一括して説明した。
- ・資料2に第1期の計画からの変更箇所を説明した。

##### 【主な変更箇所】

- ①3ページに「本市における他計画との関係」図を加えた。
- ②11ページに②認定こども園保育利用状況を加えた。
- ③28ページに令和2年度から幌別東保育所及び栄町保育所の運営を民間に委託すること。令和6年度に栄町保育所の民営化と併せて認定こども園の開設を目指すことを加えた。
- ④34ページに令和2年度から登別市総合福祉センター内に「子育て世代包括支援セ

ンターを設置し、妊娠初期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築することを加えた。

⑤ 39 ページに病児・病後児保育事業について、令和6年度に設立予定の新たな施設での実施の可能性を検討することを加えた。

⑥ その他、軽微な文言修正を行った。

・資料3「ニーズ調査および実績を踏まえた量の見込みについて」、前回会議での説明を行った内容の補足説明を行った。

#### 【補足説明の内容】

① 2 ページの「潜在型家族類型」がタイプAからタイプFまでの7タイプに分類することを説明。

② 3 ページの潜在家庭類型がタイプA、B、C、Eに該当すると保育認定となること、同じく、タイプC'、タイプD、タイプE'、タイプFに該当すると教育認定になることを説明。

③ 4 ページでは、0歳児のニーズ調査結果と平成27年度から令和元年度までの実績値を比較した結果、乖離があることから前回計画見直し時と同様に実績値を基に計画値を作成していることを説明（素案30ページとリンクしていることを確認）。

④ 5 ページでは、1、2歳児及び3歳以上児の幼稚園・認定こども園の1号認定利用のニーズ調査結果が実績値を照らし合わせた結果、妥当であると判断し、計画値を作成していることを説明（素案31、32ページとリンク）

⑤ 6 ページでは、3歳以上児の保育認定利用のニーズ調査結果が実績値と照らし合わせた結果、妥当であると判断し、計画値を作成していることを説明（素案32ページとリンク）

⑥ その他の数値についても、ニーズ調査結果と実績値を照らし合わせた結果、乖離がある場合には実績値を基に計画値を算出し、乖離がない場合には、その数値は妥当であると判断し、計画値を作成していることを説明。

・資料4-1、4-2を用いて「保育所利用定員」の現状を説明し、現在の定員540名から480名に変更したい旨の説明を行った。また、認定こども園の2号認定定員については、現在の40名から105名に変更したい旨の説明を行った。

・資料4-3を用いて、令和2年度以降の施設ごとの利用定員内訳の説明を行った。また、素案31ページの1号認定の資料において、計画期間の利用定員を355人としたことから、計画期間中の必要利用定員を下回っているが、広域利用分を含めると必要数を上回っていることから、提供体制を満たしていることを説明した。

#### 【質疑・意見交換】

・1点目の「第2期子ども・子育て支援事業計画の素案」に関するもの  
(委員)

・計画そのものの考え方についてですが、保護者支援の目線で作成された計画のように感じるが、子どもをどのように支援するかという目線での考え方になるべきでは？

(事務局)

- ・この計画は子ども子育て支援法に基づく量の見込みや確保策を盛り込んでいるもので、全体としては、本計画の前身である「登別市次世代育成支援行動計画」を策定し、子どもを生き育てやすいまちづくりを進めてきたが、これを踏まえて「登別市子ども・子育て支援事業計画」として策定したものである。
- ・子ども目線の表現とすると、素案26ページの基本目標3「子どもの成長に資する教育環境の整備」に記載している内容がそれに該当するものと考えている。

(委員)

- ・なぜこのような質問をするのかと言うと、昨年姉妹都市の海老名市では、子育て部局と教育部局がひとつの建物の中に配置されており、子育てと教育を一環して対応している。
- ・また、今年の春に新潟県三条市の教員との情報交換時には、三条市においては、教育委員会の中に子育て部局が組織されていることがわかった。
- ・このような取組をしている自治体は少数なのかもしれませんが、本市においては、子育てに関する部局が保健福祉部と教育委員会の2カ所に分かれていることが本当に適切なのか疑問に感じている。この会議の参加者も保健福祉部の職員のみで、教育委員会の職員が1人もいない状況で、小学校6年生までの子どもの支援について明記されている計画であることを考えるとこれで良いのか疑問に感じている。

(事務局)

- ・この計画は保健福祉部が中心になり作成しているが、素案作成段階では、教育委員会や健康推進グループへの照会を行い、記載内容を確認してまとめている。
- ・市としては、過去に幼稚園に関することは教育委員会所管でありましたが、同一年齢の子どもに対する支援等を行うため、小学校入学前の子どもは保健福祉部、入学後は教育委員会所管としておりますが、各担当ではしっかりと連携をはかりながら現状としては、進める。
- ・本会議には教育委員会の職員は出席していませんが、関連する質疑や意見がありましたら、教育委員会へ確認を行い、計画の見直しなどを行いたい。

(委員)

- ・子どもたちの貧困について、「貧困」対策を計画に盛り込むことは考えているか。

(事務局)

- ・「貧困」対策については、本計画に盛り込むことも一つの手法ではありますが、独自に作成する手法もある。
- ・現時点では、どのようにするかは決まっていないが、次の素案を示すときには、方向性を提示したい。

2点目の「ニーズ調査結果と実績を踏まえた量の見込みについて」に関するもの  
(委員)

- ・先ほど説明があった計画では、利用者のニーズを満たした利用定員になっていることは理解したが、私自身、「保育所に入所できない」と聞くことがある。その理由のひとつは「保育士不足」とも聞いている。
- ・この計画では、その部分が明確になっていないので、「施設の利用定員としては、十分確保しているが、保育士不足という大きな課題を抱えている。」という部分を記載すべきでは？

(事務局)

- ・本計画では、「量の見込みと確保策」を中心とした内容を記載しているが、「保育士の確保策」についてどのように盛り込むべきなのか。また、この内容を本計画にそもそも盛り込むべきものなのかを、次回開催の子ども・子育て会議で市の考え方を示す。

3点目の「保育所等の利用定員について」に関するもの

**【質疑・意見交換】**

特になし

**(3) その他**

(事務局)

- ・次回の子ども・子育て会議は、令和2年1月20日(月)18:00を予定。  
また、開催の案内については、後日改めて郵送する。
- ・質問については、メール等で1月10日まで。

以上